

第二次大戦後の常磐線

戦後の常磐線を観てみましょう。

進駐してきたアメリカ軍が東北に進駐し、その東北を管轄するアメリカ軍は兵士は常磐線経由の列車で、車両は中通りを経て仙台に向かいました。最初は 6 号国道を通る予定でしたが、その事前調査で 6 号線の余りのひどさに唖然として、急遽中通りに変更されたのです。仙台のキャンプ地は苦竹でした。

敗戦国日本は、当然ですが占領下にあり、施政権は GHQ (General Head Quarter for the Supreme Commandar for the Allied Power) 連合軍総司令部、最高総司令官はダグラス・マッカーサ - 元帥が全てを支配し、我国の国名は Occupied Japan (占領下の日本) 国鉄は当時鉄道省と呼ばれていましたが、占領とともに鉄道の支配権は全て GHQ が支配することになり、特に道路が悪すぎるため、兵士や貨物の輸送は鉄道が優先しましたから全ての運営権は GHQ が握り、日本人職員はその命令に従うだけでした。

従って全てが進駐軍優先で、同じ編成の電車でも白い帯をしたのがガラ空きの進駐軍専用車、地獄のような超すし詰め車両が日本人専用車。



(食糧難で地方へ買い出しに出かけ、貨幣価値が信用できない時期、物々

交換でした) 自分の身を剥いでゆく(衣類と食料を交換する)生活を筍生活と称していました。親たちは本当に苦労してきたのです。

この占領下の我国では様々な奇怪な事件が起こり、謎に包まれ、黒い霧事件として封印されたままです。